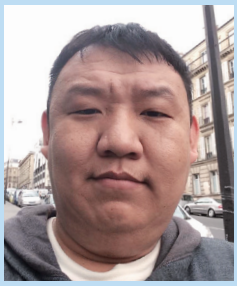
派遣研究員

氏　　名	王　鶴（WANG He）
所　　属	歴史民俗資料学研究科　博士後期課程
派遣期間	2016 年 4 月 21 日～2016 年 5 月 11 日
派 遣 先	フランス国立高等研究院　東アジア文明研究センター
研究課題	明治時期における横須賀軍港、軍用地の研究 ――横須賀海軍船廠を中心に



フランス国立高等研究院への派遣調査についての研究成果報告

王　鶴

研究の内容と調査の提起

私の博士課程での研究テーマは、日清戦争と明治時代の日本海軍軍政史である。博士論文の内容は、清国と日本の航海日誌を史料として、日清戦争以前の両国海軍の管理水準を比較することである。「航海日誌」は、船舶の運航に関する記録を書き記した日誌のことである。船舶の航海記録としての「日誌」は古くから存在しているが、公式に日々の動向を記録する「航海日誌」は、近代になって制度化されたものである。近代以降の船舶では、所属国の法的定めにより航行中は継続的に記載し続けることが義務づけられている。

海軍にとっても航海日誌を作成することは、平時や戦時を問わず重要な義務であった。その主な内容は、航海活動、勤務、軍事訓練、作戦などの事項に関する活動の記録である。その他、艦上設備の運転や気象などについての情報を集めることも基本的な仕事である。さらに、航海日誌に記載された艦船の日常の管理規則、後方勤務の状況、人員編制の調整、軍事訓練、設備のメンテナンスなどの情報も極めて貴重だと考える。航海日誌についての研究は、海軍の航海経験についてはもちろん、兵士の技能の養成などを明らかにするのに大きな意義がある。

清国海軍の主力である北洋艦隊と、日本の主力である常備艦隊（戦争直前、西海艦隊と共に連合艦隊を編成）は、1894 年の日清戦争勃発時には既に近代的な海軍となっていた。艦隊が整備されるなかで、基本的な制度の一環として航海日誌（勤務日誌を含む）の制度も確立した。

それらの日誌の記録情報を利用して、両国艦隊の日常管理のレベル、戦前の後方勤務を含む艦隊の近代化水準を分析、さらに両国艦隊の方針を比較する研究は、重要な一つの視点といえる。

同時に、北洋海軍の軍事素養について、中国の研究界では見解が大きく二つに分かれている。一つの視点では、北洋海軍の腐敗と管理レベルの低下により、北洋海軍の軍事素養が極めて低かったと考えられている（軍隊無能論）。もう一方は、腐敗と管理の問題だけではなく、軍備と後方支援などの不足から、客観的に把握することが必要との見方である。兵士たちの軍事素養を客観的に把握することが、日清戦争時の海軍史研究において、新しい情報を提供することになる。これまで、航海日誌の存在がほとんど知られておらず、航海日誌そのものや航海日誌に基づいて清日海軍を分析する研究は少なかった。しかし、近年新たに航海日誌の実物や関連史料が発見されるようになり、それらを用いた研究が可能となっている。

本論では、以下の二つの問題を究明したい。まず、航海日誌のような原始の史料で、日清戦争以前の両国海軍の日常管理の実態をはっきりさせる。特に兵士の管理や後方勤務の保障などの点を明らかにしたい。その上でこれらの情報を分析し、両国の近代海軍の管理レベルと海軍建設の優劣点を把握する。つぎに、戦前の日誌の記録を、海戦での相関的な史料と合わせて、清日海軍の兵士の軍事素養を再検討したい。日誌の記載通り、両国海軍の兵士の日常業務、生活実態など面を描くという視点から研究を行う。そのために、清、日海軍の士官、水兵の募集、教育、人員の編成、日常の生活などあらゆる面から把握することと、またその構想を実現するための調査

◉写真１　Deux ans au Japon（1876―1878）[1)]

◉写真２　L'hôtel des Invalides

◉写真３　L'hôtel des Invalides に展示された近代火砲の模型

が必要である。

まずは、両国の近代海軍の士官の揺籃である福州船政学堂、横須賀製鉄所、海軍兵学校の資料を調査し、続いてフランス調査した。清、日両国の近代海軍の発展は、1860 年代からほぼ同時に始まった。この時代には、英仏など列強の極東へ資本および技術輸出という方式で拡張し、特に 1860～1890 年代には、フランスが重要な役割を演じる。その時期の中、日の海軍史研究にとって、フランスからの影響は無視できないが、いまの中国史学界や、日本史学界は、フランス側史料の利用が依然として十分ではないと考える。日仏、中仏の海軍技術提携に関する研究を進めるためには、フランス史料の利用は必要不可欠なことだと思う。フランスの海軍史料は、福州船政船廠、横須賀製鉄所を含む清、日の近代海軍の軍事教育、海軍組織の発展に関する資料である。それらの資料はフランスの国防省、外務省に保存されており、両国海軍の揺籃期における海軍人員の留学、フランス技術者の雇用、海軍教育学堂の建設、初期海軍士官の募集、養成などの記録が含まれている。中日研究者にとって、そのあたりのフランス史料は、東アジア海軍史研究の処女地といえる。

調査の目的地、内容

1、オテル・デ・ザンヴァリッド（L'hôtel des Invalides）
調査日：2016 年 4 月 27 日
調査内容：博物館に展示されている下関戦争時期の戦利品：日本幕府の下関砲台の火砲実物、19 世紀フランス軍隊の軍服、装備、武器の展示品

2、シャイヨのフランス国立海洋博物館
調査日：2016 年 4 月 28 日
調査内容：中世、近代のフランス海軍に関する歴史的事件を示す油絵、中世、近代の艦船のフィギュアヘッド（船首像　figurehead）模型、艦船の彫刻、近代フランス軍艦の模型、清仏戦争、下関戦争に関する戦場写真、油絵、19 世紀のフランス海軍の全金属製潜水服

3、フランス外務省資料館
調査日：2016 年 5 月 1 日
調査内容：横須賀製鉄所、福州船政局のドックの模型、横須賀製鉄所、福州船政局に関する外交文書、手紙、公文書、横須賀製鉄所、造船所時代のデザインした図面、契約書、船廠に関する設備の注文契約書、清仏戦争の外交文書

4、フランス国防省海軍歴史資料部
調査日：2016 年 5 月 4 日

◉写真４　ナポレオンの陵墓

◉写真５　L'hôtel des Invalides に保存される青銅砲、下関戦争時期、戦利品としての日本砲台の青銅砲も保存品の一つとなる

◉写真６　シャイヨのフランス国立海洋博物館

◉写真７　フランス国立海洋博物館の甲鉄艦時代の軍艦模型

◉写真８　ペリー黒船と同じ時代の蒸気船模型

調査内容：三景艦のデザイン図面、横須賀造船所と福建船政局のドックの図面、模型資料、フランス駐清国大使館の武官より福州船政局に関する報告、福州船政局のフランス人雇用者との契約書、フランス人技術大監の雇用契約書、福州船政局についての機密日記、福州についてのファイル、フランス雇員とフランス艦隊及び海軍省の間の往復通信、お雇いフランス人技師の人事書類、ヴェルニーの人事書類

5、ブレスト海洋博物館
調査日：2016 年 5 月 8 日
調査内容：中世、近代のフランス軍艦の実物模型、海軍歴史、文化に関する写真、模型、文物、油絵、彫刻等の展示品、火砲、潜水艦等の実物、ブレスト軍港の歴史及び造船史の調査

◉写真 9　ブレスト海洋博物館に保存されている「Jean Bart」号巡洋艦の模型（写真提供：フランス国立海洋博物館）

◉写真 10　ブレスト軍港

◉写真 11　Gustave Bourgain（French, 1855—1921）
19 世紀後半にフランス海軍の艦砲を操作する状況を描いた油絵（写真提供：フランス国立海洋博物館）

◉写真 12　ブレスト海洋博物館

今回の視察の意義と成果

中、日両国の近代期における海軍史、特に海軍創設初期の海軍教育史、産業史の研究は、フランス側の史料を恐らく重視するであろう。両国は海軍の創設の初期に、技術の輸入相手として、フランス海軍を選んでいる。フランスの建艦技術を導入し、フランス技術者を雇い、造船工廠と海軍兵学校を建設した。武備の面でも、フランス製部品、兵器、軍艦を輸入し、同時にフランスの建艦技術に基づき、自国軍艦の国産化を試した。その中で、日本の横須賀製鉄所と中国の福建船政局の創設が最も注目されている。両工廠の建造計画と設備が全部フランス式というだけではなく、両国は最初に自国で建造した軍艦のタイプと技術特徴もほぼ類似（フランスのイメージが強い）している。そのほか、両国の近代海軍史は、フランスと深い関わりがあり、中国の場合は、フランスとア

◉写真 13　ブレスト要塞の実物模型

ロー戦争や清仏戦争を行った。日本も、フランスを含む西洋の四国艦隊との間に下関戦争を起こした。清仏戦争期間、日仏両国の海軍も一度に同盟を結び、清国に対抗した傾向が現れた。一方、フランスは19世紀後半期の極東へ進出した海軍の活動については大量な資料を残していた。フランスは、アロー戦争、下関戦争、横須賀造船所と福建船政局の建設、清仏戦争、北清事変などの歴史事件の中で当事者として重要な役割を演じている。フランスの極東での活動はほぼ東アジアの近代史を貫いているといってよい。フランスの将校、兵士、顧問、技師が極東と頻繁に交流したことにより大量の手紙、公文書、戦場絵画、写真が残されている。今日の研究者は、これらの文字資料を極めて貴重な研究資料と考えている。特に今回の調査の諸資料には、横須賀造船所、福州船政局の創建経緯とフランス政府、軍部の介入の過程が詳しく記録されており、清日両国の近代海軍の建設初期の教育、訓練、留学、制度の模索、建艦技術力の養成及び技術の特徴などの情報には、高い研究価値があると思う。今後の研究に役立つものと確信する。

文字資料の他、近代海軍史に関する油絵、写真、実物、模型、フィギュアヘッドなど、等々の非文字資料の調査で得た発見は今回の重要な成果である。中世以降のフランス海軍の植民活動、その歴史及び文化の姿をはっきりと示している。館中の艦船模型は、各時期のフランス軍艦の技術特徴を明確に表している。非文字資料を見学し、19世紀以降の軍艦構造、海戦の戦術、海軍の技術発展の水準、列強国の海軍文化に対する理解が強くなる。

今回の調査研究では、重要な研究資料を数多く収集しただけではなく、海外との交流という貴重な経験が得られ、ところどころ異国文化を感じることができ、実に愉快な研究体験であった。

【注】

1）Deux ans au Japon（1876–1878）: journal et correspondance de Louis Kreitmann, officier du génie

Achievement Report on the Research Visit to the School for Advanced Studies in the Social Sciences, France

Graduate School of History and Folklore Studies Doctoral Program　WANG He

Contents of research and topics for investigation

The theme of my doctoral research is the Sino-Japanese War and the history of the Imperial Japanese Navy in the Meiji Era. My dissertation compares the levels of supervision in the navies of the Qing Dynasty and the Empire of Japan before the Sino-Japanese War, based on historical records in logbooks that were kept on naval vessels of the two countries. A logbook is a daily record of a ship's operations. Journals of voyages have been written through the ages, but a system of keeping a logbook that officially records the day-to-day activities aboard a ship was established in the Modern Era. Since the Modern Era, ships have been required by the laws of each country to keep a logbook for the duration of their journey.

Keeping a log is an important duty in the navy, in times of both war and peace. A logbook contains entries on navigation, duties, training, strategies, and other relevant activities. The crew record the operation of facilities and equipment aboard the ship and log accounts of the weather. The logbook also contains valuable information on daily management rules, logistics, adjustment of personnel, military training, and facility maintenance. Studying the logbook is meaningful not only in learning about a voyage, but also in learning how navies develop the skills of their personnel.

The Beiyang Fleet was the main component of the Imperial Chinese Navy, while the main arm of the Imperial Japanese Navy was the Standing Fleet, which merged with the Western Fleet to form the Combined Fleet just before the Sino-Japanese War. The navies of both countries were modernized by the time the Sino-Japanese War erupted in 1894. The system of keeping a log (including records of duties) was established as a basic routine when the fleets were organized.

Analyses of their management capabilities and degree of modernization using information from the logbooks and comparisons of the fleets' policies offer important

perspectives.

The views of Chinese scholars on the Beiyang Fleet's abilities are mainly divided. One side speculates that the Beiyang Fleet was incompetent due to corruption and derogation of management. The other side points out that in addition to corruption and management issues, the lack of armaments and logistical support should also be taken into account in making an objective assessment. An objective assessment of the military capabilities of naval personnel will provide new insights into the study of naval history in the Sino-Japanese War. With the existence of logbooks not widely known in the past, few studies have been made on the logbooks themselves, and few analyses on the imperial navies have been carried out using information culled from the logs. In recent years, however, logbooks and related papers have newly surfaced, making it possible to conduct studies using those materials.

In my thesis, I wish to investigate two issues. First, I intend to reveal the actual state of supervision in the navies of the two countries before the Sino-Japanese War based on primary sources like logbooks. I would like to particularly shed light on personnel management and security for logistics personnel. Analyses of such information will help us grasp which of the navies had the advantage in management and construction. Second, I wish to reexamine the military capabilities of the two countries' sailors by studying logbook records before the Sino-Japanese War in correlation with historic naval battle records. To do so I will examine the routine tasks and daily lives of sailors. Investigation is also required to understand various aspects of recruiting navy officers and personnel, education, organization, and everyday life.

I will first study historical sources in institutions that nurtured naval officers, like the Fuzhou Naval College, Yokosuka Naval Arsenal, and Imperial Japanese Naval Academy. Then I will examine French sources. Development of the modern navy began almost simultaneously in China and Japan in the 1860s. The great powers at the time, such as Britain and France, exported resources and technologies which led to the expansion of the two navies. France particularly played a major role from the 1860s to 1890s. French influence cannot be ignored in studying naval history of that time, but the use of French records remains insufficient in the studies of Chinese and Japanese history. I believe the use of French naval records, including information on the Fuzhou Naval College, Yokosuka Naval Arsenal, and other documents on the development of military education and organization in the modern navies of Imperial China and Japan, is vital to the study of Japanese-French and Sino-French technological cooperation. These documents, stored in the French Ministry of Defense and the Ministry of Foreign Affairs, include records of studies abroad of navy personnel, employment of French engineers, construction of naval education facilities, and recruitment and development of navy officers in the early days of the modern navy, and offer up new ground in the study of naval history in East Asia for Chinese and Japanese researchers. I took this opportunity to search French historical materials to complete the research for my dissertation.

Research destinations and contents

1. The National Residence of the Invalids (Hôtel des Invalides)
Date of visit: April 27, 2016
Materials studied:
Displays of items taken from Japan by the French on winning the Shimonoseki Campaign (e. g., actual artillery from a Shimonoseki battery) ; French military uniforms, equipment, and weapons from the 19th century

2. The National Navy Museum in the Palais de Chaillot
Date of visit: April 28, 2016
Materials studied:
Oil paintings of historic incidents involving the French Navy in the Middle Ages and the Modern Age; models of figureheads from medieval and Modern Age vessels; carvings from vessels; models of modern French battleships; photographs and oil paintings of battles in the Sino-French War and Shimonoseki Campaign; an all-metal, atmospheric diving suit by the French Navy in the 19th century

3. The Diplomatic Archive Center of the Ministry of Foreign and European Affairs
Date of visit: May 1, 2016
Materials studied:
Dock models of the Yokosuka Arsenal and Fuzhou Arsenal; diplomatic papers, letters, and official documents relating to the Yokosuka Arsenal and Fuzhou Arsenal; de-

sign drawings, contracts, construction order for a dockyard in the Yokosuka Arsenal; diplomatic papers from the Sino-French War

4. The Defense Historical Service of the French Ministry of Defense
Date of visit: May 4, 2016
Materials studied:
Design drawings of the Matsushima-class cruiser (nicknamed *Sankeikan* after the three scenic views of Japan); blueprints and models of docks in the Yokosuka Arsenal and Fuzhou Arsenal; report on the Fuzhou Arsenal from an attaché of the French Embassy in Qing China; contract of a French employee in the Fuzhou Arsenal; employment contract of a French technology inspector; classified journal concerning the Fuzhou Arsenal; files on Fuzhou; correspondence between French employees, the fleet, and ministry; personnel records of French engineers; personnel records of Leonce Verny

5. The National Marine Museum in Brest Castle
Date of visit: May 8, 2016
Materials studied:
Models of medieval and Modern Age French warships; photographs, models, cultural relics, oil paintings, and carvings relating to naval history and culture; actual artillery and submarine; history of the Brest naval port and shipbuilding

Significance of the visit and achievements

I will likely emphasize French records in the study of Chinese and Japanese navies in the Modern Age, particularly in the study of education and industry in the early days of the modern navy. Both countries chose to import technologies from the French Navy and utilized French shipbuilding technologies and hired French engineers to build shipyards and naval academies. The two countries also imported French parts, weaponry, and vessels for armaments. They later made attempts to build their own warships based on French shipbuilding technologies. The Yokosuka Naval Arsenal in Japan and the Fujian Arsenal in China are of particular interest. Their construction plans and facilities were all made in French-style, and the first battleships built domestically by each country strongly resembled French warships.

The Chinese and Japanese navies in the Modern Era were deeply involved with France. China fought the Arrow War and the Sino-French War against France, while Japan fought the Shimonoseki Campaign against the joint naval forces of four countries that included France. During the Sino-French War, the navies of Japan and France joined forces against the Qing Dynasty. France has abundant records of their navy's advancement in the Far East in the late 19th century, especially having played a significant role in historic incidents such as the Arrow War, Shimonoseki War, construction of the Yokosuka Arsenal in Japan and Fujian Arsenal in China, the Sino-French War, and the Boxer Rebellion. French actions in the Far East are apparent throughout the Modern Era.

French officers, troops, advisers, and engineers frequently interacted with the peoples of China and Japan, so many letters, public documents, battle paintings, and photographs remain. Today's researchers consider these records to be valuable materials for research. The materials I studied during my visit contained detailed accounts of construction at the Yokosuka Arsenal and Fuzhou Arsenal, as well as accounts of interventions by the French government and military. It is also highly worth studying the records on education, training, studies abroad, search for a structured system, development of shipbuilding technology, and technological traits. I am confident these materials will benefit my future research.

In addition to written material, discoveries from the study of non-written materials, such as oil paintings, photographs, original items, models, figureheads, clearly reflecting the history and culture of colonization by the French Navy since the Middle Ages, were also valuable. Models of warships explicitly illustrate the technology of the French Navy of each era. Observation of such non-written materials deepens one's understanding of the structure of warships, tactics in naval battles, degree of technological advancement, and naval culture of the major powers in and after the 19th century.

Through this research visit I was able to gather many important research data; it was also a valuable experience to interact with people overseas and encounter foreign cultures. The visit was a delightful research experience.